

いじめ問題に立ち向かう

予防教育③

山崎 勝之 鳴門教育大学大学院教授 予防教育科学センター所長



「予防教育の光景」この予防教育の授業を見るのも、これで4回目になる。教育目標に沿って、先もこれだけの活動を考えたものだ。最初は、どこかの1学年で、1教育8時間だけどうぞと言っていたが、これなら160時間続けても子どもたちは付いてくるだろう。大人でも面白い。鳴門教育大学では大学院に「予防教育科学」という授業があって、大学院生を児童・生徒役にして予防教育の授業を体験させているようだ。大学院生もノリノリで参加するというから不思議なものだ。

4回見ていて気が付いた。どの授業も中身が違つが、進行には共通の型がある。その詳しいことは、共に書いて重宝する。



「感情の理解と対処の育成」の授業におけるアニメ・ストーリーオープニング画面(小学3年)

アニメを通じ情動かき立て

▼授業の型
予防教育の160時間は、全て違う授業が展開される。しかし、この予防教育には共通した授業の進め方、つまり型がある。その型を下表に示した。最も大切なのは⑤活動クライマックスで、通常20分ほど続き、ここで教育目標の大半が達成される。他の手続きは、子どもを授業に引き付けたり、授業内容の記憶化を促

「感情の理解と対処の育成」の授業におけるアニメ・ストーリーオープニング画面(小学3年)
進する役目を持つ。情動と感情をかき立てることがベイスになる以上、授業では、子どもたちが渦のように目を見詰めていく。アニメでは、ストーリーがもしもない。一授業内では合わせても5分以内の提示である。ストーリーは1教育8時間内で完了するが、その8時間にわたって子どもたちをアドベンチャーの世界に引き込む。登場人物と一緒に問題を解決しながら(動物王国を救う、未来の自分を助けるなど)、授業目標を達成していく。アニメであるから、動きと音楽満載で、イラストから音楽までこの教育のオリジナルである。小学3年から中学1年まで全20編のアニメが完成している。⑥シェアリングは授業の感想の共有で、小学6年生

予防教育における授業の型

- ①授業時の注意(グループ活動方法含む)
②授業の目的
③導入アニメ・ストーリー
④活動助走
⑤活動クライマックス
⑥シェアリング*
⑦終結アニメ・ストーリー
⑧授業プロセスの確認
⑨授業で学んだことの意義

*小学6年と中学1年では、シェアリングの後にインセンティブ質問(動機付けを高める質問)挿入

以上になると、この後インセンティブ質問といふ答えのない2択の問題が出される。これは大人でも難しい問題で考え込んでしまふ。この正解のない質問の提示により、子どもたちは授業で学んだことを考え続け、授業

の記憶の鮮明さが増す。⑧プリント類一式が入ったツールボックスが各グループの机上中央を陣取る。授業に関連して重要点やイラストを描いた強化のためのシール、そのシールを貼ったり、授業プリントをとじるファイルノートもある。運営も教材も豪華な授業であるが、無理のない授業作成のプランも用意され、どの学校でも実施できる。
▼子ども同士の活動重視
この授業では、子どもたち同士の活動が重視される。旧来の先生対児童・生徒という構図は必要だが、弊害が多く、最低限にしたい。子ども同士の活動の中心は小グループ(3~6人)になる。小グループの構成には神経を使う。授業が始まる前に、小グループ構成用の座席シートと児童・生徒の名前を書いた駒カードが用意される。まず、記録係候補を各グループに2人ずつ決め、男女交互の座席配置など、作成の手順が詳しく設定されている。日替わりのグループ・キャプテンもいる。
これで準備が整った。次回から実際の授業を紹介しよう。